

主な資料館等

■山陰海岸学習館

住所：〒681-0001 鳥取県若美郡若美町牧谷1794-4
電話：0857-73-1445
アクセス：若美駅より町営バス「田後・陸上行き」に乗り、山陰海岸学習館前で下車、徒歩1分
ここで見られる主な文化財：山陰海岸ジオパークである浦富海岸の魅力を紹介

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日が休館日）
国民の祝日の翌日（日曜日・休日の場合を除く）
年末年始（12月29日～1月3日）、7月20日～8月31日の間は無休
入館料：無料

■石谷家住宅

住所：〒689-1402 鳥取県八頭郡智頭町智頭396
電話：0858-75-3500
アクセス：JR智頭駅から徒歩10分
ここで見られる主な文化財：「石谷家住宅」「石谷氏庭園」
休館日：水曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
入館料：大人500円・幼児/80才以上無料・高校生400円・小学生300円

■若桜郷土文化の里

（歴史民俗資料館、三百年氏住宅、たくみの館）

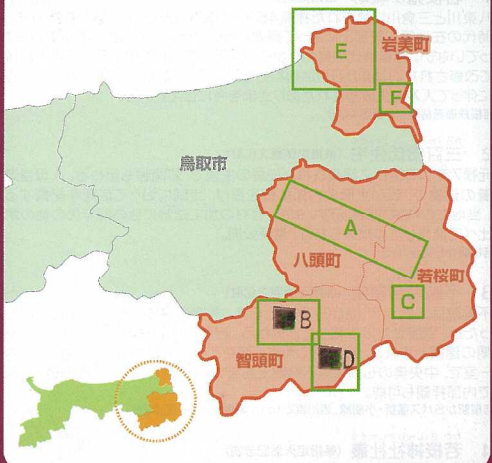
住所：〒680-0721 鳥取県八頭郡若桜町屋堂窪31
電話：0858-82-0583
アクセス：若桜鉄道若桜駅から徒歩10分
ここで見られる主な文化財：「三百年氏住宅」「木工芸」「旧若桜銀行」（若桜町歴史民俗資料館）
休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）、その他（年末年始等）
入館料：特別展を除き無料

今後の刊行予定

平成24年度:vol5 西伯郡・日野郡編
鳥取県文化財課のホームページ「おしらせ」でvol1～4をご覧いただけます。
<http://www.pref.tottori.jp/dd.aspx?menuid=121069>
とっとり文化財NAVIで文化財を探せます
<http://db.pref.tottori.jp/bunkazainavi.nsf/index.htm>

本紙の掲載地域の位置

（若美町・八頭町・若桜町・智頭町）



●発行・編集●

鳥取県教育委員会事務局文化財課

平成24年3月発行

〒680-8570 鳥取県鳥取市東町一丁目271番地
電話 0857 (26) 7525 / FAX 0857 (26) 8128

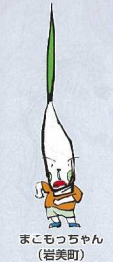
本書で使用している地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものです。（複製番号 国土地理院、第369号）
本書で使用している地図の複製品をさらに複製する場合は、国土地理院長の承認が必要です。また、本書の内容を転写し掲載するには鳥取県教育委員会の承認が必要です。

うらたけのついで

1 **浦富海岸**（国指定名勝及び天然記念物）
山陰海岸ジオパークのジオスポット。奇岩や島嶼、洞窟、洞門等の海食地形と、砂浜海岸が交互に連なる変化に富んだ海岸風景など貴重な地質的特徴を併せ持つことから、名勝及び天然記念物に指定されている。かつて浦富海岸を訪れた島崎藤村は、浦富海岸固有の美しさを「松島は松島、浦富は浦富だ。」と記している。
※網代付近の海岸へは、若美駅からバス若井線で15分、網代下車、徒歩5分



2 鳥取藩台場跡 浦富台場跡



まこもっちゃん（若美町）



2 **鳥取藩台場跡 浦富台場跡**（国指定史跡）
幕末期、海防意識が高まるなかで鳥取藩内に築かれた台場（砲台）で、この浦富台場のほか県内七ヶ所に築かれた。浦富台場には六反反射炉（北栄町）で生産された12斤台砲等4門が備えられたが、実戦一度も使用されることはなかった。現在は砲台が据えられた土塁がのこり、「浦富台場公園」として整備されている。
※JR若美駅から町営バス田後・陸上線で6分、町営駐車場前下車、徒歩3分

3 **新井三嶋谷墳丘墓**（県指定史跡）
浦生川を見下ろす小高い丘陵上に築かれた2基の弥生墳丘墓で、1号墳丘墓は南北24mの四角い形の墳丘斜面にびっしり石が貼りつけられた貼石墓で、墳丘頂部からは3基の埋葬施設がみつかった。2号墓は貼石のない方形墳丘墓。現在は公園として整備されており、因幡の弥生王墓の威容を望むことが出来る。
※JR若美駅からバス若井線で3分、恩志橋下車、徒歩10分

4 **大羽尾神社（因幡の菖蒲綱引き）**（国指定重要無形民俗文化財）
若美町大羽尾地区の産土神である。当神社と、同じく集落にある天台宗勧学寺の大木に、菖蒲綱引きで使用した綱がかけられている。菖蒲綱引きは、毎年6月5日に近い月曜日に、子どもを中心に行われる。午前中に茅、菖蒲、蘆をより合わせて綱がつけられ、午後海岸で綱引きと相撲が行われたあと、綱を2本に切って神社と寺に納められる。
※大羽尾JR若美駅から若美町バス陸上線で10分、羽尾下車

5 **山陰道蒲生峠越**（国指定史跡）
「山陰道」とは古代における行政区分の名称であり、この行政区分の国々をつなぐ官道のこととも「山陰道」と呼ばれるようになったと推定されている。江戸時代になるとこの道は鳥取と京都を結ぶ主要街道として、鳥取藩が整備し、「但馬往来」とも呼ばれている。現在、峠の頂上付近には往來の安全を祈願したであろう「延命地藏大菩薩」の台座が残り、当時の往来の様子を今に伝えている。
※JR若美駅からバス若井線で18分、神塚下車、徒歩5分

6 **元若井小学校舎**（若美町指定保護文化財）
明治25年に建築された擬洋風建築で、左右対称のデザインとなっている。玄関バルコニーの柱のデザインなどに洋風建築の要素を取り入れながらも、屋根は和風とするなど折衷様式となっている。明治中期の擬洋風建築として、また県内現存最古の校舎建築として貴重である。
※JR若美駅からバス若井線で7分、若井温泉口下車、徒歩5分

7 **二上山城跡**（県指定史跡）
二上山城は、標高346mの非常に険しい独立峰・二上山の頂上付近に築かれた典型的な山城である。「一の中」「二の中」などからなる城郭の構造は、南北朝期の山城としての特徴を示し、文中年中に因幡守護に任じられた山名時氏が築城したという伝承からも、創建時期が窺える。
※JR若美駅から町営バス小田線で8分、若常下車、徒歩20分程度



4 大羽尾神社（因幡の菖蒲綱引き）



3 新井三嶋谷墳丘墓



8 岩井廃寺塔跡



8 **岩井廃寺塔跡**（国指定史跡）
浦生川右岸の山裾、御湯神社の参道脇にある塔心礎で、地元の人々から「鬼の礎」と呼ばれ親しまれている。心礎に穿たれた柱孔の底には、直径20cmの舍利孔がみられ、周辺から出土した瓦の年代から、白鳳時代の寺院跡であると考えられている。
※JR若美駅からバス若井線で10分、若井下車、徒歩10分

地図 E

地図 F



文化財総覧 シンボルマーク

Vol.4 文化財めぐり

【若美郡・八頭郡編】

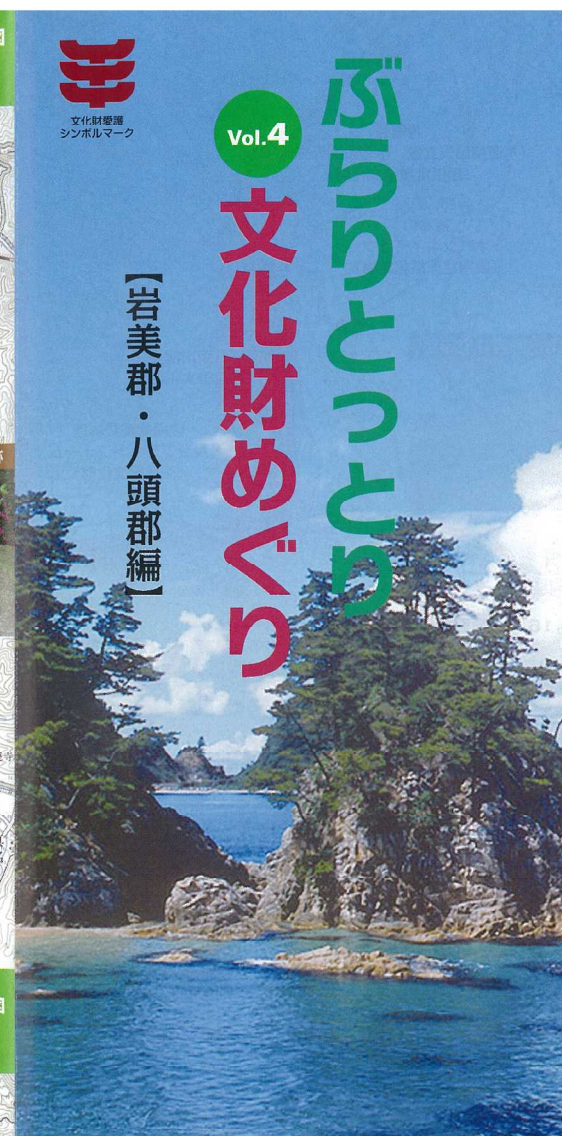


写真:浦富海岸(地図E)

今回は、若美郡（若美町）と八頭郡（八頭町・智頭町・若桜町）を取り上げました。いずれのエリアにも歴史にゆかりのある古道が通っています。若美町には鳥取と京都を結ぶ主要街道として鳥取藩によって整備された「山陰道蒲生峠越」があるほか、平成20年に世界ジオパークネットワークに加盟した山陰海岸国立公園「浦富海岸」（国指定名勝及び天然記念物）があります。

八頭郡には鳥取藩主田池家の参勤交代の道として使われた「智頭往来」（智頭町）、播磨への道として使われた「若桜街道」（若桜町）の2つが残っています。いずれも因幡地方の流通を支えた主要な幹線道路でした。また、若桜町から八頭町にかけて若桜鉄道が走っており、駅舎や橋梁などの関連施設を含めた路線丸ごとが全国ではじめて登録文化財となりました。



22 西御門の大イチョウ

9 若桜鉄道 (若桜駅本 ほか) (国登録有形文化財)
昭和5年に全線開通した旧国鉄若桜線。開業当初からある6つの駅舎や、橋梁、終着駅の設備等が残されており、計23の施設が登録文化財となっている。

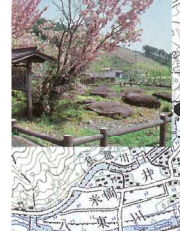
22 西御門の大イチョウ (県指定天然記念物)
西御門集落の山手側に一本のイチョウがある。雌木で、毎年秋になると大量のギンナンをつける。胸高直径約2.5m、枝張り、東西約35m、南北約29m、樹高は約90mという巨樹で、とっつりの名木100選にも選ばれている。



9 若桜鉄道 (若桜駅構内)



16 土師百井庵寺跡



16 土師百井庵寺跡 (国指定史跡)
霊石山から南東に延びる丘陵上に立地する。ほ場整備などに伴う発掘調査によって、東に塔、西に金堂を配する法起寺式の伽藍配置であったことが明らかとなった白鳳時代の寺院跡。現在も塔心礎をはじめとする礎石がそのままだけ残り、当時の栄華を偲ぶことができる。

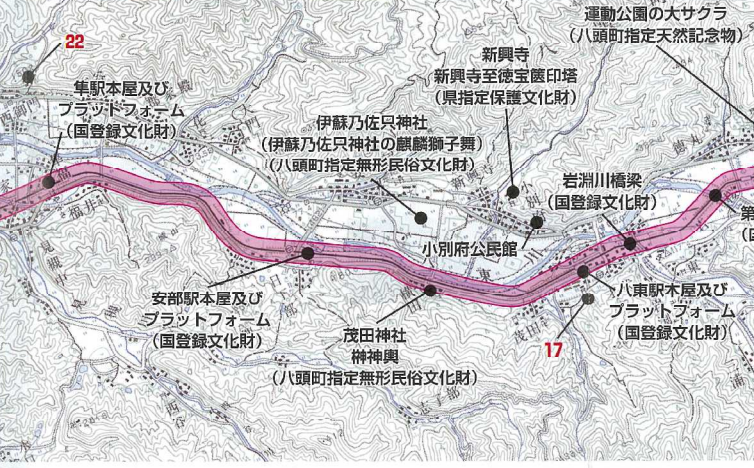
17 澤神社 (澤神社の麒麟獅子舞 (県指定無形民俗文化財))
八頭町才代地区の産土神で、毎年4月の春祭と10月の秋祭に、境内で麒麟獅子舞が舞われる。この獅子舞でかかて用いた蚊帳は、鳥取藩初代藩主池田光仲の織子の寝具を用いて作られたといひ、当地の獅子舞の歴史の古さを感じさせる。

18 石谷家住宅 (国指定重要文化財)
石谷氏庭園 (県指定名勝・国登録記念物)
近代に材業経営で栄えた石谷家の住宅で、優れた意匠をもつ大型の近代和風建築。広々とした土間空間や、洗練された座敷が特徴である。庭園は池庭、枯山水等様々な様式を取り入れている。

19 諏訪神社 (諏訪神社の柱祭り (県指定無形民俗文化財))
弘安元年に信濃(長野県)諏訪神を勧請したと伝える旧村社。貞年、申年の4月の酉の日に、四本の杉の神木を担いで町中を練り歩き、神社本殿の敷地の四隅に建てる柱祭りが行われる。天明2年の智頭大火の際、火伏せを願って、信濃諏訪社の御柱祭りに倣って始めたといえらる。

20 智頭町板井原伝統的建造物群保存地区 (県選定伝統的建造物群保存地区)
江戸時代には炭焼業と農業、近代には養蚕を主な生業とした集落で、江戸時代から昭和40年頃までの家屋が多く残る伝統的建造物群保存地区。歴史的な建物群と周囲の自然環境とが一体となった、日本の原風景ともいえる景観を伝えている。地区内には登録文化財(建造物)も複数存在する。

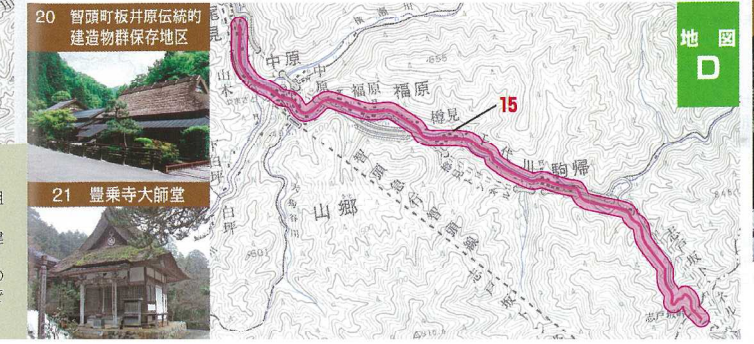
21 豊乗寺大師堂及び山門 (県指定保護文化財)・豊乗寺のヌギ (県指定天然記念物)・木造毘沙門天立像 (国指定重要文化財)
茅葺の大師堂は天明2年(1782)に建築されたもの。造りは簡素だが、組物等に18世紀建築の特色が窺え、正面には池田家の家紋が用いられるなど、鳥取藩との関わりも深かったことがわかる。山門は、延享元年(1744)に建築され、組物などの絵様も大師堂より古い様式を伝えている。境内には県指定天然記念物である巨大なヌギの木が3本見られ、国指定の彫刻で平安時代後期の作と推定される木造毘沙門天立像を見学することもできる(要事前申込)。



16 土師百井庵寺跡 (国指定史跡)
17 澤神社 (澤神社の麒麟獅子舞 (県指定無形民俗文化財))
18 石谷家住宅 (国指定重要文化財)
19 諏訪神社 (諏訪神社の柱祭り (県指定無形民俗文化財))
20 智頭町板井原伝統的建造物群保存地区 (県選定伝統的建造物群保存地区)
21 豊乗寺大師堂 (県指定保護文化財)
22 西御門の大イチョウ (県指定天然記念物)



清徳寺の巨樹名木群 (県指定天然記念物)



10 若桜の町並み (カリヤ通り・蔵通り)
カリヤ通りには明治の大火後から昭和20年代までに建築されたと思われる町屋が並んでおり、深雪時でも通行できるように「カリヤ」と呼ばれる半野外の通路が設けられている。蔵通りには土蔵が連なっており、防火帯の役割を果たすと言われている。雪の多い地域ならではの工夫を凝らした景観を持ち、火災からの復興や近代の林業繁栄の歴史を伝えている。

11 若桜鬼ヶ城跡 (国指定史跡)
八東川と三倉川に挟まれた標高452mの鶴尾山の山頂に築かれた山城。室町時代の在地領主矢部氏によって築城されたといえらるが、詳しい年代はわかっていない。戦国時代の終わりから江戸時代のはじめ頃に石垣を携えた城として改修された。山頂の石垣は崩れた場所が多く見られ、一國一城令による廃城に伴って人為的に破却されたといえらるを今に伝えている。

12 三百田氏住宅 (県指定保護文化財)
享禄7年(1594)に建築された庄屋の主屋で、普請帳も伝わる。入母屋造、茅葺の建物で、広い土間の内部に厩を設け、土間に沿って広間を配置するなど、当地の特徴を良く示す。また、材料の加工法等に他の同年代の他の家屋に比べて進歩した点が見られる。常時公開。

13 不動院岩屋堂 (国指定重要文化財)
不動院は大同元年(806)創建と伝え、秀吉の鳥取攻めの折に焼き討ちにあったが、岩屋堂だけが残ると伝わる。岩屋堂は岩窟内に立つ懸造で、室町前期の建築とされる。柱などに大きく面をとり、正面に火灯籠を設ける。内部は一室で、中央奥の仏壇には不動明王をまつ。3月と7月の法要の他、事前予約で内部拝観も可能。

14 若桜神社社義 (県指定天然記念物)
若桜町と八頭町の境にある遠見山から北東にのびる尾根の先端南東斜面に位置する。標高は220~280mで、シラカシを中心とするカシ林である。シラカシには巨大なものも多く、胸高直径が90cmを超えるものもみられる。鳥取県下では数少ないシラカシの多い、成熟した照葉樹林である。

15 智頭往來志戸坂峠越 (国指定史跡)
平安時代から畿内と因幡を結ぶ主要な道として利用されており、近世では、鳥取池田藩が参勤交代の道として重視し整備を行っている。智頭町内には、往來安全を願う大日如来や地藏の他、廻国記念碑など近世の道にまつわる石造物が数多く残されており、参勤交代のみならず、庶民や物が往來する主要道であったことが窺える。自然や歴史に恵まれ、昔の面影を今に伝えている。



13 不動院岩屋堂



19 諏訪神社 (諏訪神社の柱祭り)



若鬼くん (若桜町)